

— 教師たちに嬉しいクリスマス・ボーナス —
【新潟国際協力ふれあい基金助成】

現地公立小学校の平均月収1万⁸に対して、CMBの教師は3,500⁸(HANDSの奨学金や笠井氏協力によるHANDS教育基金利子寄附で、昨年度の2,500⁸から約1,000⁸ほどアップ)。公立教師の資格を持ちながらあえてピラーンの子どもたちの教育に当たる教師達、特に扶養家族を抱えるベテラン教師も山の分校にとどまれるように、今年も新潟県国際交流協会から助成金をいただきました。7校20名に、一人当たり5,000⁸平均のボーナス支給が可能です。近い将来、共同組合活動などが軌道に乗り、父母の現金収入が増せば、外部の支援に頼らず教師の給与も賄えると期待しています(事務局)



Yoshiko Dofilesさん

— 一度行きたいピラーン —

千葉県 橋本あき広

この11月にフィリピンから手紙がきました。「長らくご無沙汰しました。ダバオでガイドをしていたものですから返事が遅くなりました。折り紙の本ありがとうございました。孫達は折り紙の本を見て全部分かるようになりました。…この前、篠原さん、笠井さん、山崎さんたちとピラーンへ行きました。マーベルから2時間も馬に乗って山道に行く大変なところですよ。ここに住んでいる子どもたちは本当にかわいそうでした。着るものも食べ物も十分ありません。橋本さん一度行ってみて下さい。」

この手紙は、ジェネラルサントスに住んでいて、私たち里親がチボリ(同じくミンダナオ南部の先住民族。1980年から日本の里親の会が支援)へ行ったときに通訳をしてくれる沖縄出身のYoshiko Dofiles さんからの手紙です。そのうちピラーンへは行きたいと思っていながら、なかなか踏ん切れないでいるのですが、この手紙を見てどうしてもいかなければ・・・と感じています。

手紙の中に折り紙の本のことが書いてありますが、よし子さんにプレゼントするものをいろいろ考えた末に、お孫さんと折り紙の本を送ったのです。この本は「英語で楽しむ折り紙」(大泉書店)と題して、折り紙の基本から実際までを英文と日本文で書いてあります。本と一緒に「折り紙」と「爪楊枝」を送りました。この爪楊枝は細かいカド等を折る時に便利なもので、説明付きで送りました。

「育」には「教」と「育」があります。この二つは車の両輪のようなものです。折り紙や紙ヒコーキ、竹とんぼ、ブーメラン、お人形などをつくる遊びごとは、発想、アイデア、考える力などの幅広い脳細胞の活性化につながるとともに、人格形成に必要な「育」に当たると思っています。「育」は言葉を変えれば愛ですから、愛がない「教」は殺伐とした片寄った人間をつくります。

折り紙の本は、ピラーンに行くときも持っていくつもりです。ボランティアをやっているとお土産の是非が問題になります。持っていくことは不公平感を生み出すので一切駄目という人が多いが、何の目的で、何を持っていかにあるのだろうと思います。私はこれまでチボリには3回行きました。みんなで遊べるもの、教育にプラスするものを考えて持って行きます。持参したことがあるのは、知恵の輪、折り紙、ブーメラン、バトミントン、リコーダー、白石と黒石を並べるパズルなどです。お手玉、ヨーヨー、けん玉も用意しましたがやめました。私ができないからです。お人形作りができればいいなと思っています。子どもたちが喜ぶだけでなく手工芸品として売れるかも?それに私のお土産にはもう一つあります。バカ面踊りとマジックです。バカ面踊りって何じゃいな?これは実演しないと・・・年明けの定例会で踊りましょうか?

まあ、何をしても100%ということはありません。長所と短所とは共存しています。今のピラーンにはやってあげたいことばかりです。現地の自立へのやる気と幸せを願いつつ頑張りましょう。どうぞみなさん、よい年を!